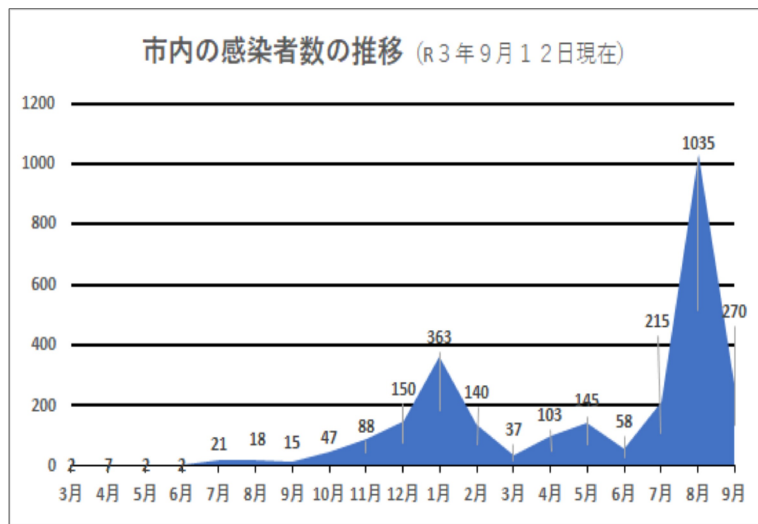


# 「臨時医療施設設置を県に求めよ」小田桐議員追及

## 市長の危機意識の欠如は深刻



出動した日数は7月7日間、8月15日間」と消防長が回答。いっぽう市長は、「自宅療養死は避けなければならぬ」と回答するも、小田桐議員に促されて、やっと答弁に立ちました。

### 県へ抗議も要請もせず

法律では臨時医療施設の設置義務者は千葉県。しかし、施設設置の要請について、市長は「適宜：」「機会あれば：」と回答。また昨年4月、30億円（補正予算）で千床の臨時医療施設の設置を約束しながら、未設置になっている県に対し、市長は抗議すら表明しませんでした。

### 8月の不搬送71件

流山市での感染者数は、R2年度1年間で892人に対し、ウイルスの活動が弱まる8月だけでも1035人となりました。

9月議会では、小田桐たかし市議の質問に、「保健所からの指示により、医療機関へ救急搬送しなかった（不搬送）事例は7月6件、8月71件となり、新型感染症搬送に要した最長時間が5時間11分、市内救急隊全隊（6隊）が同時に

### 市長メッセージ 積極的に更新せず

感染拡大のもと、積極的な情報発信が不可欠です。しかし市長のメッセージは、4月19日以降、更新されず、党市議団が要請し（7月30日）、8月3日更新。しかしその後更新されていないことから、小田桐市議が一般質問で追及し、「更新する」と市長が約束しました。

野田市長は、市内で自宅療養死が3人発生したことを受け、「臨時医療施設を設置を県市長会（会長・井崎義治流山市長）から要請したが、千葉県から返事が無い」と議会答弁したそうです。市民を守り切れず、本当に悔しかったと思います。

この一年半余、国民は自粛など活動制限に耐えるいっぽう、政府は検査に際せず、県は臨時医療施設を設置義務を放棄し、市は感染対策への経費拠出を抑え、県へ抗議も要請もしない。まさに政治による「人災」だと私は考えます。政治を変え、科学的知見に基づく感染対策の強化を実現しましょう。私も引き



流山市議会議員

小田桐たかし

# 療養ホテル増設・検査拡充

## 党要請で前進



7月9日、千葉県へ要請書を手渡す党市議・県議団。右から三輪よしみ県議、星野幸治野田市議、加藤英雄県議、渡部和子柏市議、小田桐たかし、いぬい紳一郎各流山市議

党市議団は、安全で迅速なワクチン接種の加速化や感染症封じ込めに千葉県や流山市への要請を重ねてきました。この間前進した施策について報告します。

### 療養ホテル 柏市内へ設置

9日千葉県知事のメッセージに、柏市内へ療養ホテル（170室）が増設されることに盛り込まれました。看護師ら10人以上でたいおうにあたります。県内の療養ホテルは、昨年9ヶ所で対応してきましたが、千葉市・船橋市・成田市の6施設へ減少。東葛北部地域は「ゼロ」となっていました。

### ワクチン接種の加速化

県独自大規模接種センターは県内2ヶ所で実施され、7月末で一時的に閉鎖されたものの、9月19日千葉市で再開されました。

7月12日から一時予約停止となっていた64才以下の市民接種は、8月30日から再開されました。

市内の超低温冷凍庫は、市内1ヶ所から12ヶ所へ拡大し、集団接種会場は市内東部地域限定2ヶ所から、市内全域最大6ヶ所（ワクチンの配送量の減少から現在は3ヶ所）へ拡充することで、9月7日時点の接種率は、1回目57.4%、2回目24.8%（県平均1回目50.8%、2回目39.8%・全国平均（9日時点）1回目61.9%、2回目49.8%）となり、加速化が始まっています。

子どもの周辺で働く市内の教職員等への接種について、優先接種の再設定や学校法人の職域接種地域支援分により、教職員は10月10日頃に2回接種が完了予定。保育士（事務員・給食調理員を含む）と学童保育支援員は、10月20日頃に2回接種が完了する予定（※ワクチン接種希望者限定）です。

### 検査・医療体制の拡大

市独自検査センターは週2日、検査数30件を100件へ拡大します。

「疑い」患者を含めた入院受入れ体制づくりでは、昨年度から継続し、市内3病院へ3億5千万円超（R2年度～R3年8月末まで）の支援を行っています。

### 地域経済支援の拡大

R2年度末、市独自の飲食店のテイクアウト支援は、今年度に入って第3弾（9月末）まで実施。対面販売事業者等へのCO2測定機購入補助もスタートさせます。